

# 「研究データエコシステム東海コンソーシアム」 のこれまで(とこれから)

青木 学聰 (名古屋大学)

2025.12.1

大学ICT推進協議会 2025年度 年次大会 RDM部会企画セッション



青木学聰, 松原茂樹

## 「大学での研究データマネジメント環境整備の検討 —AXIES RDM 部会の活動を通じて」

学術情報処理研究(**JACN**), 第29巻(2025年, 最新号)

[https://doi.org/10.24669/jacn.29\\_0046](https://doi.org/10.24669/jacn.29_0046)

### RDM部会の活動レビュー

- 「部会設置」「提言」「ガイドライン」「アンケート」「情報基盤スタッフ向け教材」「事例集出版」の経緯

# 研究データエコシステム構築事業「本体」

**研究データ基盤の機能実装**

**研究データ基盤高度化チーム**  
NII Research Data Cloudを  
7つの側面から機能拡張

**活用 コード付帯機能**  
データ・プログラム・解析環境の  
パッケージ化と流通機能を提供し、  
研究成果の再現性を飛躍的に向上

**信頼 データプロビанс機能**  
データの来歴情報の管理から利用  
状況を把握でき、データ公開への  
インセンティブモデルを提供

**蓄積 セキュア蓄積環境**  
安全で強固なデータの保存・保護機  
能を有する超鉄壁ストレージを提  
供し、機微な情報も安心して保全

**NII リーダ機関**  
Discovery  
Presentation  
Publication  
Curation  
Writer  
Experiment  
Planning  
IDEA

**データ検索基盤 CiNii Research 現行研究データ基盤**

**NII RDC Research Data Cloud**  
JAIR Cloud GakuNin RDM

**データ公開基盤**

**データ管理基盤**

**データガバナンス機能 管理**  
計画に基づきデータ管理等を機械  
的に支援し、DMPをプロジェクト  
管理に不可欠な仕組みへと変革

**キュレーション機能 流通**  
専門的なキュレーションを実践  
できるエコシステムを構築し、  
データ再利用の促進に寄与

**秘匿解析機能 保護**  
秘密計算技術で機微な情報も安心して  
解析できる環境の提供で、新しい  
データ駆動型研究の世界を開拓

**人材育成基盤 育成**  
RDMに必要なスキルを学ぶ環境を  
提供し、全ての研究者を新しい  
科学の実践者へと育成

**セキュア蓄積環境**

**キュレーション機能**  
**秘匿解析機能**  
**コード付帯機能**  
**データプロビанс機能**  
**データガバナンス機能**

**プラットフォーム連携チーム**

**理化学研究所**  
リーダ機関

- 機関内サービス等とNII RDCの連携機能の整理と設計
- 計測機器等からの大量データを効果的に管理するための要件整理と機能開発
- 管理対象となるメタデータの設計と実証
- 関連する高度化機能との仕様調整と共同開発

**融合・活用開拓チーム**

**東京大学**  
THE UNIVERSITY OF TOKYO  
リーダ機関

- 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に発展する取り組みを精査
- 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に関する具体的なユースケースを創出
- ユースケースをまとめたツールキットの作成とそれを用いた広報活動

**ルール・ガイドライン整備チーム**

**名古屋大学**  
NAGOYA UNIVERSITY  
リーダ機関

- 研究データの活用に適した機械可読データの統一的な記述ルールの設計
- 研究データの公開に必要な要項や作業フローの整備
- 研究データを適切に取扱うための指針のまとめ
- 学内整備のための事例形成

**人材育成チーム**

**大阪大学**  
OSAKA UNIVERSITY  
リーダ機関

- 人材育成を主とした研究データ管理体制の構築を推し進める学内組織構築の事例形成
- 研究データ管理人材に求められる標準スキルに関する検討
- 研究データ管理人材育成のためのカリキュラムの作成、オンライン学習コースの整備

中核機関群の代表からなる運営委員会が全体を統括し研究データエコシステムの全国展開に向けて共同実施機関を随時拡大

2022年度～2026年度  
(実働は2022.7～)

「ポリシー」を起点とし  
た組織的なRDM体制構築

が主な取り組み

# 「ポリシー」策定のその後 – 名古屋大学の場合



浅川楳子 「研究データ管理ガイドラインの作成と展開」  
(データエコ事業東海コンソ第9回セミナー, 2025.11.5)  
より一部改変・補足

## RDM支援＝研究支援のど真ん中

- 2025年 (**もう終わってしまうが・・・**)  
「データポリシー策定率100%」になると、  
「機関は何ができるようになるか?」を提示する
- 名古屋大学での知見を参加機関で活用する  
ただし、
  - 同じ時間・コストをかけてもらうわけにはいかない
  - そのままコピーでは血肉にならない

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/group/consortium/>

- ・「ルール・ガイドライン」チームでの実践結果を共有・展開
- ・2025年11月現在の加入状況: 37機関

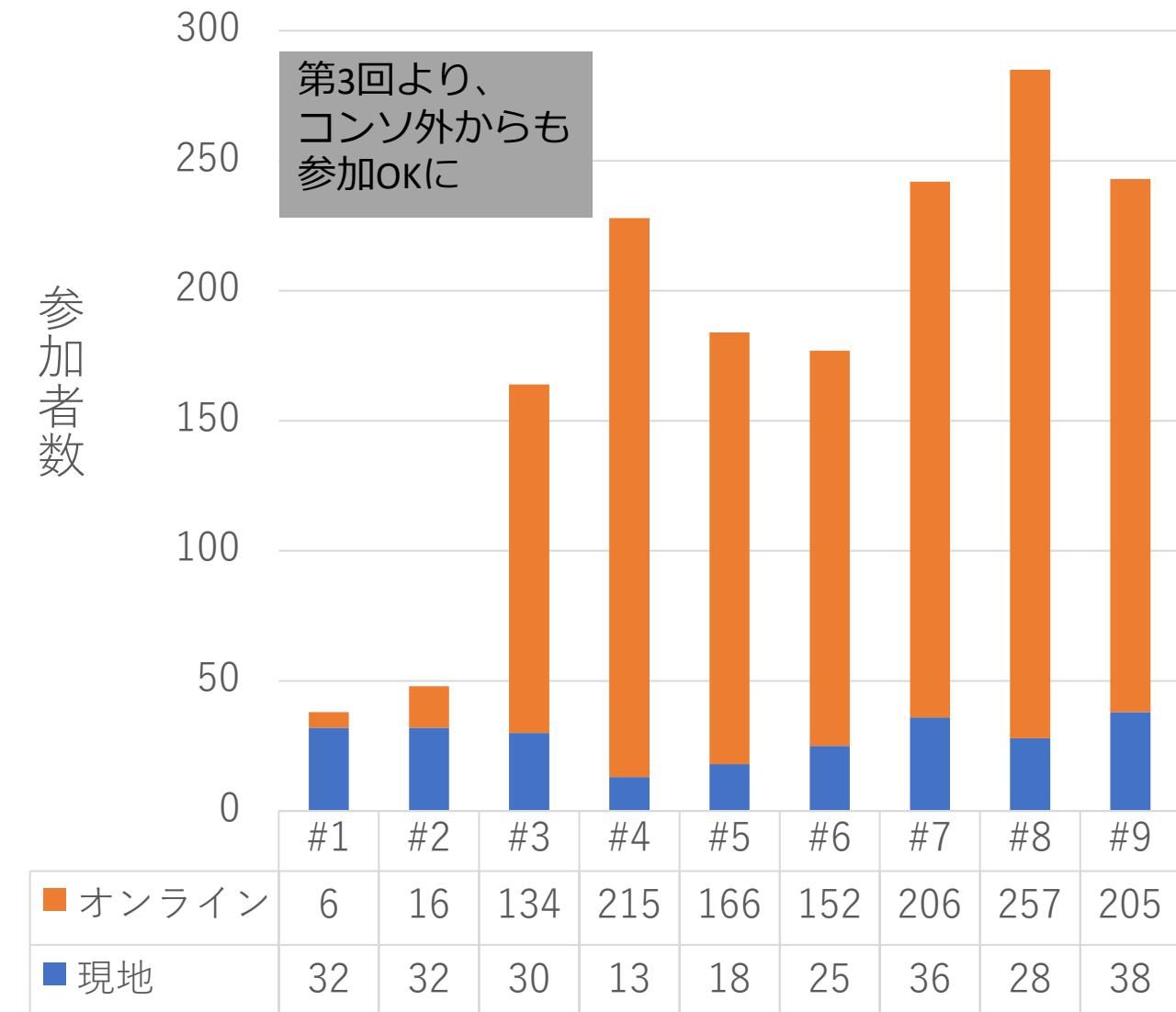
	正会員(大学・機関)	準会員(部署・研究所)	総計
連絡先筆頭の主な業務 (※事務局の推定)	図書	7	5
	情報	8	7
	研究推進 +その他	6	4
	<b>21</b>	<b>16</b>	<b>37</b>

# コンソーシアム事業: セミナーの開催

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/event/>

- 第1回(2023.12.6): キックオフ  
国内外のRDM動向
- 第2回(2024.3.21): ポリシー策定・実施  
(機関・医療分野)
- 第3回(2024.6.7): メタデータ  
(機関リポジトリ・分野毎)
- 第4回(2024.9.10): DMP作成・研究者支援
- 第5回(2024.12.3): NII RCOSとの対話  
PID工コシステム
- 第6回(2025.3.4): データポリシー策定
- 第7回(2025.6.3): 国内RDM整備状況  
レビュー
- 第8回(2025.9.9): OA加速化事業の  
インパクト
- 第9回(2025.11.5): データ工コ事業の  
アウトリーチ
- 第10回(2026.3.3):  
(計画中)

いずれもセミナー後、会場限定で非公開意見  
交換→「うまくいかないこと」の共有



# コンソーシアム事業: 機関毎のポリシー策定・組織運営支援

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/project/>

- データポリシー策定支援
  - Type-I: (日本国内で一般的となった)簡潔なポリシー本文と解説の策定  
ポリシーに沿った「次の行動計画案」も含む
  - Type-II: 具体的施策としての「データ取り扱いガイドライン」等の策定
- 研究データ管理に関する調査・分析支援
  - RDM部会アンケートを基にした実施支援
  - 研究者の意識・実態調査、とともに機関としての考え方を伝える手段
- RDM業務手順書作成支援 <即時オープンアクセス対応支援(2025年度新設)
  - 各機関が実施する業務内容・要求される業務スキルの文書化
  - 「RDM業務標準化」に向けた試金石
- FD・SD研修支援
  - 講師派遣(今は名大から松原先生 or 青木のみだが・・・)

# 支援業務実績(2023.Q3～2025.Q3)

年度		ポリシー作成支援(タイプⅠ)	ポリシー策定支援(タイプⅡ)	アンケート実施支援	RDM業務支援	講師派遣支援	講演依頼
2023	3 Q			三重大学		三重大学	
	Q 4	三重大学 核融合科学研究所 豊橋技術科学大学		名古屋市立大学		名古屋市立大学 豊橋技術科学大学	
	1 Q		名古屋市立大学				
	Q 2	長岡技術科学大学 津市立三重短期大学					
2024	Q 3	愛知県立芸術大学 金城学院大学		津市立三重短期大学 愛知県立芸術大学			東北大学
	Q 4	藤田医科大学	三重大学 核融合科学研究所			朝日大学 三重大学	九州大学 はこだて未来大学
	1 Q					愛知教育大学	
	Q 2	藤田医科大学	愛知教育大学 愛知工業大学	和歌山大学	朝日大学 中京大学	藤田医科大学 静岡社会健康医学大学院大 学	
2025			名古屋大学(糖鎖生命コア研究 所) 名古屋大学(医学部)		名古屋大学	岐阜県立看護大学	
	Q 3	愛知学院大学	静岡社会健康医学大学院大学 金城学院大学 愛知県立芸術大学 朝日大学		愛知県立芸術大学	長岡技術科学大学	東北大学
	Q 4						
		10	10	5	4	10	4

# 「動き続ける」コンソーシアムであるためには?

- ・「行動の原資(ヒト・モノ・カネ)」の問題、はあるとして・・・
- ・大学個別の事情をくみ取り「信頼」と「行動力」を維持しなければならない
- ・「RDM支援＝研究支援のど真ん中」というなら、課題は尽きない
  - ・効果的・安全な「研究者の活動」・「研究データ管理」支援体制の実現・充実に向け  
適切な「ゴール・課題・アクション」の設定
- ・大学個別に「フルセット」の支援体制なんて作れない  
機関間での「資源の共有・プラットフォーム化 & AI活用」が今後のカギ
  - ・研究データ・プロジェクトマネジメント:  
PI伴走者の技能高度化 – シニアURAから研究補佐員まで
  - ・ポリシー整備: 大学運営・制度設計へのアドボケーション
  - ・情報基盤: GRDMやJAIRO CLOUD, 関連する情報基盤の安定運用
  - ・大学業務: 業務設計、業務知識の定型化とDX&AI支援